様式１

「みんなで調べる宍道湖流入河川調査」報告書

学　校　名 （団体名） 連　絡　先	出雲市立出東小学校 Tel: 0853-62-2827　Fax: 0853-62-5625　E-Mail: sus-school@izumo.ed.jp
調査参加者	参 加 者：　２９ 名 指導者名：　原　千紘

児童による水質調査と学習のまとめ

本校では、地域の自然環境について理解を深めることを目的として、宍道湖を題材にした学習を実施した。宍道湖は校区内に位置しているものの、児童の生活圏からはやや距離があり、日常的には身近に感じにくい存在である。そこで、5 月に出前講座と水質調査を実施し、宍道湖に興味をもつきっかけとした。また、水質調査と合わせ湖に関わる体験活動を行い、児童が自ら地域の自然を見つめる機会をつくった。

１　水質調査の結果

水質調査は学校近くの万蔵寺川で実施した。万蔵寺川は、斐川町の放水路系の川で、その水は五右衛門川と合流したのち宍道湖に流れ込んでいる。パックテストによる COD の測定では、５・７・９・１１月の４回全てが「８以上」という結果となり、水中に有機物が比較的多く含まれていることが明らかとなった。透視度は 30～40cm が多かったが、一部では 10cm 台という低い値も見られた。児童は、水が濁っていることや、COD の値の高さに驚いていた。また、汚れた水が宍道湖に流れ込んでも大丈夫なのか、汚れているのにカモ、カメ、魚など生き物が見られるのはなぜか、COD とは何かなどと疑問をもち、自分たちの生活とのつながりについて考える契機となった。

２　体験活動

宍道湖を身近に感じ、その環境に目を向けられるようにいくつかの体験活動を行った。サバニ体験では、湖上から風や波を感じ、宍道湖の自然を直接体験した。グリーンパークでの漂着物拾いでは、多くの人工物が流れ着いている現状に気づき、分別作業を通して「このゴミはどこから来て、今後どうなるのか」を考えることができた。また、量は多くないが、マイクロプラスチックと呼ばれるゴミがたくさんあることに気づき、その影響についても興味をもっていた。さらに、シジミ漁師へのインタビューでは、しじみ漁の工夫や苦労、水質が生きものに与える影響について知ることができ、宍道湖と共に暮らす人々の思いにふれる貴重な学びとなった。

３　調べ学習のテーマ

体験活動をもとに、児童は次のようなテーマを設定し、調べ学習を進めた。

・しじみ漁としじみの魅力について　・宍道湖の魚（宍道湖七珍）について
・宍道湖の渡り鳥について　・宍道湖の漂着物（ゴミ）について
・マイクロプラスチックについて　・宍道湖の環境を守る人々について

各グループは資料を調べたり、新たに生まれた疑問を解決したりしながら、まとめを行った。

４　学習の成果

まとめた内容は、学習成果発表会を行い６年生と保護者に向けて発表した。児童からは「ゴミを減らす生活を心掛けたい」「宍道湖の魅力を伝えたい」「生き物が住む環境を守りたい」といった考えが述べられた。これらの発言から、宍道湖が地域の貴重な自然であることを実感し、その環境を守ろうとする意識が育まれたことがうかがえる。

５　まとめ

水質調査や体験活動を通して、児童は宍道湖の現状と自然の豊かさを自らの目で確かめることができた。今後も地域の自然に関わる学習を継続し、地域の一員として環境を大切にする姿勢を育てていきたい。

（小学生用）

様式１（続き）

みんなで調べる宍道湖流入河川調査　調査結果表

学校（団体）名：　出雲市立出東小学校

川の名前	万蔵寺川
調査地点名	学校近くの橋の下

	１回目	２回目	３回目	４回目
調査日時	５月１２日	７月９日	９月１２日	１１月１３日
天候（当日）	晴れ	くもり	くもり・雨	晴れ
天候（前日）	くもり	晴れ	雨	雨
気温（℃）	２２	３２℃	２８℃	１７℃
水温（℃）	２０	２７℃	２５℃	１５℃
ＣＯＤ（mg/l）	８以上	８以上	８以上	８以上
透視度（cm）	３０㎝	３０㎝	４０㎝	３０㎝
その他項目	・水が濁っていた。 ・川の中に藻のようなものがある。 ・水面に緑のものがたくさん浮いていた。 ・へび・カモ・カメがいた。	・水が濁っていた。 ・流れはゆっくりだった。 ・ミシシッピアカミミガメ、オニヤンマ、ハグロトンボがいた。	・水が濁っていた。 ・水かさが増していた。 ・１・２回目より流れが速かった。 ・藻や水草が増えていた。 ・生き物はあまり確認できなかった。	・水が濁っていた。 ・流れはゆっくりだった。 ・カモがいた。 ・バケツの中にエビが入った。 ・川辺にごみ（ペットボトルや発泡スチロールのパック）が浮かんでいた。